

第4期食と農業農村振興計画答申案のポイント

1 基本目標

人と地域が育む 未来につづく 信州の農業・農村と食

新たな視点

- ・担い手の確保・育成を強化 → 中核的経営体の規模拡大支援、親元就農の支援
- ・果樹の振興を特出し柱建て → クイーンルージュ®の生産拡大、輸出拡大
- ・食料安全保障の視点を持った施策の推進 → 穀物や肥料、飼料の国内生産の拡大
- ・脱炭素社会に向けた施策の推進 → 有機農業や脱プラスチックなどの取組拡大
- ・スマート農業・DXの導入の加速化による一層の生産性の向上
- ・農地保全活動や生活支援などに取り組む農村RMOの形成を推進
- ・消費者が有機農産物などを積極的に選ぶ、エシカル消費の推進

2 基本指標

農業農村総生産額 **3,700億円** (令和2年比103%)

- ・農産物産出額 : 3,300億円 (令和2年比102%)
中核的経営体への農地の集積・集約化や、果樹などの振興により増
- ・農業関連産出額 : 400億円 (令和2年比119%)
観光農園などをコロナ前までに回復させることにより増

3 生産構造の目標

- ・今後も少子高齢化による人口減少が続くことから、農業者や農地の減少を予想
農業経営体 : 42,777経営体 (令和2年度) → 36,400経営体 (令和9年度)
耕地面積 : 105,300ha (令和2年度) → 101,000ha (令和9年度)
- ・中核的経営体への規模拡大を進め、農産物産出額の太宗を担う生産構造をさらに推進
中核的経営体の農地集積率 : 42.8% (令和2年度) → **54%** (令和9年度)
農産物産出額に占める割合 : 81.1% (令和2年度) → **83.1%** (令和9年度)

4 施策体系

- ・現計画と同様に「農業」、「農村」、「食」の3本柱とし、
Ⅰ 「皆が憧れ、稼げる信州の農業」
Ⅱ 「しあわせで豊かな暮らしを実現する信州の農村」
Ⅲ 「魅力あふれる信州の食」

により施策を推進

5 施策ごとのポイント

I 農業 「皆が憧れ、稼げる信州の農業」

- ・ 本県農業を支える中核的経営体の確保・育成
- ・ 本県農業をけん引するトップランナーや大規模経営体の育成
- ・ 家族農業や小規模農業、農ある暮らしなど多様な担い手の確保
- ・ 生産が伸びているぶどうを中心とした果樹生産振興
- ・ スマート農業の導入による生産性の向上、有機農業などの環境にやさしい農業の面的拡大、農地の基盤整備の推進
- ・ 農畜産物の輸出拡大

II 農村 「しあわせで豊かな暮らしを実現する信州の農村」

- ・ 「地域計画」の策定による適切な農地利用の推進
- ・ 農地保全活動のほか生活支援等を行う農村RMOの形成を促進
- ・ 災害対策に取り組み安全安心な農村生活の基盤づくりを推進

III 食 「魅力あふれる信州の食」

- ・ 消費者が率先して地元農産物を購入する農業版エシカル消費の推進
- ・ 有機農産物などの学校給食での活用の推進
- ・ プロスポーツチーム等と連携した子どもたちへの食育・農育の推進

6 達成指標

- ・ 計画の着実な実行を図るため、施策の数値目標として、**29 指標**の達成指標を設定

7 重点的に取り組む事項

- ・ 今後5年間特に注力していく4事項を「重点的に取り組む事項」として位置付
「信州農業・農村を担う人材の確保・育成と農地の活用」
「日本一をめざす果樹（りんご、ぶどう、なし、もも）の産地力向上」
「環境にやさしい農業など持続可能な農業の展開と消費者理解の促進」
「信州農畜産物の輸出拡大」

8 地域別の発展方向

- ・ 県内10広域ごとの課題に対応するため、地域別の発展方向を設定